

災害時多言語情報センター運営訓練を実施しました

当協会は、大規模災害時に県国際課と連携して「災害時多言語情報センター」を立上げ、外国人支援を行うことになっています。そこで、ボランティアの方を対象とした通訳・翻訳訓練を実施し、24名に参加していただきました。

■日時:平成27年3月13日(金) 13:30~16:30

■会場:埼玉県浦和合同庁舎5階 第5会議室

■参加者:ボランティア24名

【内訳】・通訳・翻訳ボランティア 21名

(英語11名、中国語6名、ポルトガル語2名、スペイン語1名、タイ語1名)

・日本語教室ボランティア 3名(やさしい日本語担当)

■内容:

時間	内容
13:30-14:00	(1)災害時多言語情報センターの説明
14:00-14:30	(2)電話通訳訓練(横浜市国際交流協会(YOKE)と連携して実施)
14:30-16:00	(3)やさしい日本語及び多言語翻訳訓練

(1)13:30~14:00 災害時多言語情報センターの説明



災害時多言語情報センターの目的や支援内容について、協会から説明しました。

(2) 14:00～14:30 電話通訳訓練

※横浜市国際交流協会(YOKE)と連携して実施し、YOKEは外部機関に通訳を依頼する訓練、埼玉はかかってきた電話の通訳をする訓練をしました。



電話で通訳をする流れを理解していただくために、参加者の中から3名(英語・中国語・スペイン語)に電話通訳を体験していただき、他の参加者はその様子を見学しました。

訓練は、災害時にYOKEに外国人相談者から電話がかかってきて、YOKEでは対応ができない言語なのでトリオフオンで埼玉に回すという想定で行われました。こちらでは、相談者とYOKEとの会話を、電話を使って通訳しました。(ボランティアの方が相談に直接対応することはありません)

(3) 14:30～16:30 やさしい日本語及び多言語翻訳訓練



参加者にA～Dの4グループに分かれていただき、それぞれのグループが本日集まったボランティア全員だという想定で、方針などを話し合いながら翻訳を体験してもらいました。(今回は神奈川県沖で元禄型関東地震が起きたという想定)

最初に「避難所」の訳について考え、直訳だと母国の避難所(タイだと広場に集まるだけ等)と混同する危険があることや、やさしい日本語にしてから翻訳する方法などについて説明した後、実際に3.11の際に被災地で使われた案内文を翻訳しました。

翻訳した文章はボードに貼りだし、それぞれのグループの翻訳を参考にしました。



最後に、グループごとに気をつけたことを発表しました。

発表では、「外国人は無料かどうかを気にするので、無料ということを書いた方がいい」「被災地ではたくさんの情報が張り出され、怪しい団体のお知らせもあるので、市役所からのお知らせだということが分かるように書いた方がいい」といった意見のほかに、国際課CIRが「やさしい英語」を作るポイントを説明してくれたり、各グループに外国人がいたので、外国人の意見をどのように取り入れたかの発表があったりと、積極的に発言していただきました。